



里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.72		奈良川源流域の 谷戸・樹林地	生物地理区分		コナラ林(東日本)	
			地域区分		大都市近郊	
所在地	都道府県	神奈川県	地形 条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地
	市 町 村	横浜市		4.低地	5.その他	
	集落名称等	奈良町の土橋谷戸、西谷戸、細谷戸および樹林地	環境 要素	1.二次林	2.草地	3.水田
				4.畑	5.小川・水路	6.ため池
				7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林
				10.その他		

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

: 面積割合が最大のもの : それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
緑地保全地域・緑地保全地区、環境省「モニタリングサイト1000 里地調査一般サイト」に認定	
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
チョウゲンボウやツミなどの猛禽類が営巣し、オニヤンマ、ギンヤンマ、ヘイケボタルなどの昆虫類も多数生息するとともに、キンラン、タマノカンアオイをはじめとする貴重な植物が多数自生しています。	観光パンフレット等に写真が使用されている、風景探勝や撮影の来訪者が多い、自然公園や景観保全のための地域指定がある

	
<p>撮影時期：2009年2月</p> <p>写真の説明：典型的な谷戸の田園風景。多くの野鳥の他にコサギやキジ、カワセミなどがよく遊びに来る。夏には少しだが、ヘイケボタルも舞う。</p>	<p>撮影時期：2009年2月</p> <p>写真の説明：里山公園から土橋谷戸の田畑、向かいの玉川学園の東山を写したもの。キンランやタマノカンアオイの絶滅危惧種も生息している。</p>

NO.72		奈良川源流域の谷戸・樹林地		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	神奈川県			2.団体・企業・学校等
	市 町 村	横浜市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	奈良町の土橋谷戸、西谷戸、細谷戸および樹林地			4.多様な主体が参加・連携する組織体
					5.その他

取組 主体	主な主体の名称		奈良川源流域を守る会	
	その他の主体の名称			
目的 ：主 ：その他	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用			
	自然観察会		*	毎週鳥類センサスを実施する共に定期的に野鳥観察会、植物観察会、昆虫観察会を実施
	環境教育・学習活動		*	地元小学校の要請に応え環境教育や農家の営みなどの学習活動を行う
	里地里山体験・環境保全		*	源流域にある里山公園の下草刈りや樹木の名札付けなどを実施
	農林業体験活動		*	源流域にある畑の農作業や管理をサポート
	エコツアー			
	その他		*	毎年、秋に「里山まつり」を実施し、地元で収穫された無農薬の有機野菜を配布するなどして地域住民に里地里山に触れあう機会を提供
	4.野生動植物やその生息地の保全・管理			
	取組内容		多くの動植物が生息できるよう、里地里山特有の生物多様性を保持するために、奈良川源流部や里山、畑の管理を行っている。また、絶滅危惧種の植物などの盗掘防止にも十分配慮している。	
	5.地域の良好な景観の保全・修復			
	取組内容		農道に面した花壇を管理して、散歩者、来訪者の目を楽しませている。里山公園が荒れないように、枯れ木や竹の伐採などを行い、定期的に管理している。また、里山公園の下の方の田んぼに隣接した畑が荒れないように、草刈りなどの農作業と管理をしている。	
	6.里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承			
	対象	生活行事	*	地元農家が土橋谷戸で栽培した野菜を「里山まつり」で提供
		資源利用技術	*	木炭、竹炭造り
		その他	*	地元農家の方から農業技術を習得している。地誌作成の取り組み
	取組内容		・ 地元の竹を利用した竹炭造りの技術を地元農家の方から習得している。 ・ 地元農家の方が記した地域の歴史、名前の由来などを基に地誌の作成に取り組んでいる。	
	7.その他			
	取組内容		モニタリングサイト 1000 里地調査一般サイト(植物相、鳥類、ホタル類)に参加	
連携・協働による取組内容・役割分担等		定期的な自然観察会及び「モニタリングサイト 1000 里地調査一般サイト」の調査では、日本野鳥の会の先生や地元玉川大学の先生、学生の方々のご指導、ご協力を頂いている。 地元小学校から依頼を受け、生徒に里山を案内し、自然の大切さを説明している。		

<p>取組の特徴や強調したい点</p>	<p>&lt;これまでの経緯&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当地域に源流のある奈良川は、横浜市北部を流れる鶴見川の支流で、市街地に囲まれているが、田んぼや畑、樹林地、溜め池などがあり、いわゆる谷戸、里地里山の環境が残っている。</li> <li>・この地域では、先に記したように多くの貴重な野鳥、昆虫、植物が確認され、里地里山特有の生物多様性が保持されてきた。</li> <li>・しかし、近年の開発によって、この環境が大きく損なわれようとしている。そこで、この環境を守り、次世代に引き継ぐことを目指した活動を行っている。</li> </ul> <p>たとえば、当地域にはかつて多数のホタルが舞っていた。個体数が激減したが、いまでも生息している。これ以上、環境に負荷をかけ、ホタルが絶滅することがないよう、小川の復元を行政に要望するなど、総合的な自然環境の復元にも取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのためには、当地域の自然環境がどのようなものか、正確に把握する必要があるので、長期にわたり、定期的な観察を行ってきた。また、昨年、奈良川源流域が環境省の「モニタリングサイト 1000 里地調査一般サイト」に認定され、鳥類、植物、ホタルの調査も開始した。</li> <li>・子どもたちが豊かな自然と触れあい、その中で育つことを願っている。</li> </ul> <p>&lt;調査結果の公開など&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境や周辺環境の変遷を確認するために、里山公園及び里地の田んぼや畑を中心に九つのポイントを設定して、毎週定点撮影を行い、ホームページで公開している。</li> <li>・毎週、鳥類センサスを行い、調査結果をデータベース化している。</li> <li>・毎年、里山公園の昆虫調査を行い、ホームページで公開している。</li> <li>・広報誌「カワセミ便り」を約年 1 回発行し、第 12 号に至っている。</li> <li>・平成 23 年 6 月、横浜市長より第 18 回 横浜環境活動賞 &lt;実践賞&gt; を受賞。</li> </ul>
---------------------	--

取組の概要	里地里山の自然資源を活用した公園の管理、農作業支援などを通じ源流域の生物多様性保全	課題グループ
事例の特性	野生動植物生息調査等の実施	野生生物
取組の中で他の地域の参考となる点	多くの貴重な動植物が生息するが開発負荷の大きい鶴見川支流の奈良川源流域をフィールドに、環境保全活動グループがモニタリングサイト 1000 調査活動、環境教育支援、公開観察会、地域住民とふれあう行事などを行っている。	